



環境保全型農業に取り組む、歴史ある一大レタス産地！

JAれいほくモスレタス部会

熊本県天草郡苓北町にある、JAれいほくモスレタス部会。およそ12月から3月あたりまで、全国の店舗へレタスを出荷されています。1960年頃に、長崎県佐世保市に駐屯していた米軍のハンバーガー需要から始まった、熊本県でのレタス発祥の地！「れいほくレタス」は50年以上続くブランドレタスです。今回はそんなJAれいほくモスレタス部会より、産地だよりをお届けします！



▲生産者の
高戸さんと田中さん

★産地のこだわりポイント

「牛糞堆肥を使用することで、葉が柔らかく、えぐみのない甘いレタスができる」。堆肥は化成肥料と比べて保水力が高く、地温を高める効果があります。さらに牛糞は鶏や豚よりも有機質を多く含むため、葉に栄養が行き渡り、食味と食感の良い美味しいレタスに仕上がります。また、圃場に等間隔に設置されている黄色防蛾灯は、夜蛾類の行動を抑制する効果があり、レタスへの食害を低減することができます。



▲（右）物理的に害虫防除ができる黄色防蛾灯。減農薬に繋がる、環境保全型農業への取り組みの1つです。夜間にはナイトワークにぴったりのロマンティックな光景が広がるとか・・・！

★今期の栽培状況など

降雨量が少なく若干乾燥気味ですが、堆肥が土壌を保湿してレタスを守っているため、生育状況は順調です。ふんわり巻いたシャキシャキのレタスが圃場一面に並んでいます。



れいほくレタスは苦みやえぐみがほとんどなく、噛めば噛むほど甘さが際立ちます。「外葉も味噌汁に入ると美味しく食べられる」とオススメの食べ方を教えてくださった高戸さん。1玉まるごと余すところなく堪能できるレタスです！

★最後に・・・

約30年前から契約産地として支え続けてくださっている、JAれいほくモスレタス部会。モスのレタスのこだわりである「7分結球」は、当時、部会の皆さんとの取り組みを進める中で生まれた基準です。長年の結びつきは現在に至るまで変わることなく、モスのこだわりに応える高品質なレタスを届けていただいています。

高戸さん、田中さん、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします！